

モバイルアプリケーション科

卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■ 育成人材像

- ① デザイン性、先進性を考慮したスマートフォン、タブレット用アプリの開発、改変に対応できる。
- ② ネットワーク環境、サーバ、データベースの知識に基づいて、システム運用環境のメンテナンスができる。
- ③ 専門分野以外の知識も有する T 型人材の立場からプロジェクトに参画し、信頼性の高いシステム開発ができる。

■ 身に付ける能力

- ① Android Studio、JavaScript、Flutter を駆使し、ネイティブ、Web、ハイブリッドの 3 種類のモバイルアプリケーションを開発することができる。
- ② UI・インフォグラフィック等の情報デザインに関する知識をもとに、モバイルアプリケーションを開発することができる。
- ③ Web マーケティング分野(SEO 等)の知見、技術を取り入れてシステムを開発することができる。
- ④ 企業人として求められるレベルのコミュニケーション能力とビジネスマナーを身に付けて業務を円滑に行うことができる。
- ⑤ 業務を遂行するために自ら積極的に行動することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

■ 教育課程編成の方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1 年次前期は、IT 分野全般の基礎知識を修得するための専門科目を配置するとともに、複数のプログラム言語を学ぶ為の専門科目を配置して早期の実践力強化を図る。
- ③ 1 年次後期は、アプリ開発に必要とされる言語やツールの修得、ならびにインターネット、データベース関連の技術、知識を修得するための専門科目を配置する。
- ④ 2 年次は複数の OS 上で稼働するアプリの開発技術を修得することを前提に専門科目を配置する。加えて情報デザインやマーケティング分野など、幅広い実践力を身に着けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 企業連携実習授業を 1 年次後期に実施することで、最新技術の修得と、専門職に就く為の意識付けを早期に行う。

■ 授業実施の方針

- ① 1 年次の IT 分野における基礎知識の修得は、講義と演習問題を中心に行う。
- ② 企業と連携した実習授業の実施では、経験豊富な現役エンジニアが、デザイン表現の基礎とアプリ開発の上流工程に関するテーマについて技術的な指導を行う。
- ③ 複雑化、多様化の進むシステム全体を俯瞰しながらクオリティの高いアプリを開発できる知識と技術を修得する為に、UI・インフォグラフィックスやマーケティング分野など、関連分野を幅広く学ぶ為の専門科目を配置し、実習ならびに演習授業を行う。
- ④ 幅広いプラットフォームを対象としたアプリ開発に対応できるようになる為に、2 年間を通

して複数の OS を前提とした実習授業を行う。

- ⑤ 卒業研究は、アプリ開発を取り巻く様々な視点からテーマを決め研究を行う。最終的にプロダクトの形に仕上げ、プレゼンテーションを行う。
- ⑥ 実習授業にグループワークやプレゼンテーションを取り入れて、コミュニケーション能力を高める。

■ 学修成果評価の方針

- ① 講義科目は、定期試験、小テスト、レポート、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。
- ② 実習科目は、課題の提出状況、作品の完成度、授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。各科目の評価方法はシラバスに記載する。